

スポーツ医学学位プログラム (3年制博士課程)
Doctoral Program in Sports Medicine

授与する学位の名称	博士(スポーツ医学) [Doctor of Philosophy in Sports Medicine]	
人材養成目的	<p>スポーツ医学に以下の観点から貢献でき、国際的にも通用する研究者や高度専門職業人及びこれらの人材を育てることのできる大学教員を養成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技スポーツにおいて、科学的な見地から競技者の競技力向上に貢献できる人材。 ・生活習慣病や老化の予防を科学的見地から評価し、健康の維持・増進や疾病の予防・改善に貢献できる人材。 	
養成する人材像	<p>スポーツと健康、競技者の競技力向上、外傷と障害及び疾病の予防に関する基礎知識を有し、これを基盤としてスポーツ医学に関する研究能力を高めようとする意欲を持ち、競技スポーツ支援や健康スポーツなど各種の関連領域で活躍できる人材。</p>	
修了後の進路	<p>大学教員に加えて、行政機関や産業界において、スポーツ振興をグローバルな視点で推進する研究者や指導者</p>	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか 	博士論文研究指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、博士論文作成、論文発表、学会発表など
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか 	スポーツ医学セミナーⅢ、博士論文研究指導Ⅰ、研究計画発表会、論文予備審査会など
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるときに、質問に的確に答えることができるか 	博士論文研究指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、研究計画発表会、論文予備審査会、学会発表など
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか 	スポーツ医学セミナーⅢ、博士論文研究指導Ⅰ、研究計画発表会、学生主体による行事など
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	<ul style="list-style-type: none"> ① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか 	スポーツ医学セミナーⅢ、博士論文研究指導Ⅰ、大学院共通科目(国際性養成科目群)、国際学会発表、英語論文発表など
6. 研究力: スポーツ医学の独創的な研究を独自に行える能力	<ul style="list-style-type: none"> ① スポーツ医学の独創的な研究成果等があるか ② スポーツ医学の発展に貢献することが期待できるか 	スポーツ医学セミナーⅠ、Ⅱ、博士論文研究指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、博士論文作成、論文発表、学会発表
7. 専門知識: スポーツ医学に関する先端的かつ高度な専門知識と運用能力	<ul style="list-style-type: none"> ① スポーツ医学に関する先端的かつ高度な専門知識はあるか ② スポーツ医学に関する研究成果等があるか 	スポーツ医学セミナーⅠ、Ⅱ、博士論文研究指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、博士論文作成、論文発表、学会発表
8. 倫理観: 研究者または高度専門職業人にふさわしい高い倫理観と倫理的知識	<ul style="list-style-type: none"> ① 高い倫理観と倫理的知識のもとに研究に取り組むことができるか ② 誠実で責任ある研究活動ができるか 	スポーツ医学概論Ⅰ、Ⅱ、博士論文研究指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、博士論文作成、論文発表、学会発表
9. 学際性: スポーツ医学の学際的な特徴を存分に発揮する能力	<ul style="list-style-type: none"> ① スポーツ医学の学際的な特徴を発揮した研究に取り組むことができるか ② 学際性のあるスポーツ医学の研究成果等があるか 	スポーツ医学概論Ⅰ、Ⅱ、スポーツ医学セミナーⅢ、研究計画発表会、博士論文作成
学位論文に係る評価の基準		
<p>筑波大学大学院学則に規定された要件を充足した上で、学位論文が下記の評価項目について妥当と認められ、かつ、最終試験で合格と判定されること。</p> <p>(評価項目)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関連分野の国内外の研究動向及び先行研究の把握に基づいて、スポーツ医学分野における当該研究の意義や位置づけが明確に述べられていること。 2. スポーツ医学分野の発展に寄与するオリジナルな研究成果が、博士論文に相応しい量含まれていること。 3. 研究公正についての十分な知識に基づき、研究結果の信頼性が十分に検証されていること。 		

	<p>4. 研究結果に対する考察が妥当であるとともに、結論が客観的な根拠に基づいていること。</p> <p>5. 研究の背景、目的、方法、結果、考察、結論等が、スポーツ医学分野の博士論文に相応しい形式にまとめてあること。 (審査体制、審査方法等)</p> <p>1. 博士論文が完成した後、予備審査を行い、学位論文を評価し、最終試験に進めるか否かを審査する。</p> <p>2. 最終試験は、学位論文の提出とそれについての質疑応答を行い、主査(主指導教員以外)及び2名の副査に加えて、本学位プログラム担当教員以外の教員が少なくとも1名加わった審査委員会で行う。</p> <p>3. スポーツ医学の分野において、博士の学位に相応しい成果が得られ、相応しい体裁にまとめられていることを合格の基準とし、審査は公開で行う。</p>
<p>カリキュラム・ポリシー</p>	
<p>スポーツ医学の基礎となる基礎的知識・能力、汎用的知識・能力、倫理観を養うとともに、既成の分野では包括できないカリキュラムを体育系、医学系及び人間系に所属する教員が担当し、スポーツ医学の広範囲なカリキュラムを編成することで、スポーツ医学に関する研究を自立して行うために必要な高度の研究能力を養う教育・研究指導を行う。</p>	
<p>教育課程の編成方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の専攻分野を軸として、関連する分野の基礎的素養や広い視野、汎用的知識・能力の涵養に資するよう、研究群共通科目、学術院共通専門科目、大学院共通科目から教科目を履修することを推奨する。 ・スポーツ医学の広範囲な領域における知識や研究方法論を学ぶ基礎科目を配置する。また、最先端のスポーツ医学研究や研究手法を学ぶ専門科目を配置する。 ・「スポーツ医学概論Ⅰ・Ⅱ」により、スポーツ医学の基礎的な知識と研究方法論を学び、学際性や倫理観を身に付ける。 ・「スポーツ医学セミナーⅠ・Ⅱ」により、最先端のスポーツ医学研究の研究手法を学び、研究力と専門知識を身に付ける。 ・「スポーツ医学セミナーⅢ」では、国内外で活躍する研究者から、最先端のスポーツ医学研究やキャリアパス形成について学び、マネジメント能力、リーダーシップ力、国際性、学際性を身に付ける。 ・「博士論文研究指導Ⅰ」により、博士論文作成の基礎を学び、知の創成力、マネジメント能力、コミュニケーション能力、リーダーシップ力、国際性、研究力、専門知識、倫理観を身に付ける。 ・「博士論文研究指導Ⅱ・Ⅲ」により、博士論文作成に必要な高度の知識や研究手法などを学び、知の創成力、コミュニケーション能力、研究力、専門知識、倫理観を身に付ける。 ・国内外における学会発表により、知の創成力、コミュニケーション能力、国際性、研究力、専門知識、倫理観を身に付ける。 ・学術誌における論文執筆により、知の創成力、国際性、研究力、専門知識、倫理観を身に付ける。 ・学位取得予定者の博士論文発表会等を企画、運営することにより、リーダーシップ力、マネジメント能力、コミュニケーション能力を身に付ける。
<p>学修の方法・プロセス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次では、スポーツ医学に関連する基礎的知識・能力、汎用的知識・能力、倫理観を学ぶとともに博士論文の計画を立案させ、研究に着手させる。2年次以降は、より専門的にスポーツ医学を学ぶと共に研究を進める指導を行い、学会発表や学術誌における論文発表を積極的に行わせる。 ・1年次に基礎科目である「スポーツ医学概論Ⅰ・Ⅱ」を履修し、スポーツ医学の基礎的な知識と研究方法論を学ぶ。 ・1年次に「博士論文研究指導Ⅰ」を履修し、博士論文の計画を立案する。また、当該科目では、博士論文の研究計画を発表し、指導教員より研究指導を受ける。 ・1・2年次では、「スポーツ医学セミナーⅠ・Ⅱ」を履修し、最先端のスポーツ医学研究や研究手法を学び、各自の研究に生かす。 ・1・2・3年次において、「スポーツ医学セミナーⅢ」を履修し、最先端のスポーツ医学研究に加え、キャリアパス形成についても学ぶ。 ・2・3年次における「博士論文研究指導Ⅱ・Ⅲ」では、博士論文の研究指導を指導教員より受ける。
<p>学修成果の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次に博士論文の研究計画を指導教員が参加する研究計画発表会にて発表する。 ・博士論文が完成した後、予備審査を行い、学位論文を評価し、最終試験に進めるか否かを審査する。 ・最終試験は、学位論文の提出とそれについての質疑応答を行い、主査(主指導教員以外)及び2名の副査に加えて、本学位プログラム担当教員以外の教員が少なくとも1名加わった審査委員会で行う。 ・スポーツ医学の分野において、博士の学位に相応しい成果が得られ、相応しい体裁にまとめられていることを合格の基準とし、審査は公開で行う。

アドミッション・ポリシー	
求める人材	スポーツと健康、競技者の競技力向上、外傷・傷害予防及び疾患の予防に関する知識を有し、これを基盤としてスポーツ医学に関する研究能力を高めようとする意欲を持ち、競技スポーツや健康スポーツなどの関連領域で活躍できる人材を求める。
入学者選抜方針	<ul style="list-style-type: none"> ・入学試験では、英語の試験とこれまでに行った研究及び研究計画についての口頭試問により総合的にスポーツ医学の知識や学習意欲を評価する。 ・社会人のための特別な入学試験や科目履修のための配慮は行わないが、これまでの経験では社会人は一般的に学習意欲が高く、優秀な成績を修める学生が多いので、積極的に受け入れる。

